

## 「DXとは」

日本テンプレヴァン(株)井上拓郎

### 「デジタルトランスフォーメーション」

中華人民共和国の北京市で開催された冬季オリンピックも、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染が拡大している中、大きなクラスター感染などを起こさずに無事閉幕致しました。開催国の中国は、5G（第5世代移動通信システム）を始めとするAIやロボット技術など、最先端のデジタル技術などを用いて、オリンピックを安全かつ円滑に運営し、世界に向けて製造強国としてのアピールの場となった大会だと思えます。期間中はデジタル人民元などによる完全キャッシュレス化や、AIを用いた採点システムなど、初めて導入された技術が幾つもありました。これらの進化したデジタル技術を浸透させて、人々の生活をより良いものへと変化させることをDX（デジタルトランスフォーメーション）と言いますが、皆さんもお聞きになったことは有るかと思えます。このDXについて経済産業省は、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、

企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することと定義しています。寺院運営において競争上の優位性は気になさらない方もおられると思いますが、この定義の企業を寺院、顧客を檀信徒に、製品やサービスを檀務や法務へ置き換えると、皆さんには想像しやすいのではないのでしょうか。つまり置き換えると、寺院が社会環境の激しい変化に対応すべく、データやデジタル技術を活用し、檀務や法務を変革し、より良い寺檀関係を構築していく事とも言えます。コロナ禍で対面する布教活動が思うように出来ない昨今、ご寺院でもDXを推進するところが増えてきました。ご寺院側は密を避ける為、やむを得ずといったところが多い反面、檀信徒の皆さんにとっては、サービスの向上と受け取る方のほうが多いようです。全てをDX化する事は出来ませんが、時代の変化に対応できるよう、また檀信徒の皆さまから望まれる寺院になれるよう変革していくことが、お寺のDXの目指すところなのだと思います。

### 「寺のDX」

具体的なお寺のDXについては、公益財団法人全日本仏教会と大和証券株式会社  
が調査主体となっておこなった「仏教に関する実態把握調査（2021年度）」に、調査結果が出ておりましたのでご紹介致し

ます。一般の方へのインターネット調査の結果になりますが、利用意向と利用経験のデータが載っており、今後のDX推進の参考にして頂ければ幸いです。（調査結果の詳細につきましては、全日本仏教会のホームページに記載されております）。利用意向（あれば利用したい）の中で多かったのは、回答者の菩提寺有無に関わらず、法要のオンライン予約（44.6%）で、次にオンラインを使った法話（29.9%）、オンラインを使った年忌法要（27.6%）の順番でした。また利用経験（利用した事がある）においては、全ての項目で高くても2.3%程度で、概ね1%台だった為、利用したいと思われる方が30〜40%いても、まだ提供できる寺院が少ないと捉えられます。他にもバーチャル寺院参拝やバーチャル墓参りなど、利用してみたいと思う方が20%以上いても、実際に経験した方は2%程度に留まっており、檀信徒の要望に答えられていない現実が浮き彫りとなりました。

皆様のご寺院でも檀信徒のご要望をご確認の上、お寺のDX推進について検討してみても如何でしょうか。

出典「仏教に関する実態把握調査（2021年度）」（公財）  
全日本仏教会、大和証券（株）